

高崎商科大学・平成 31 年度運営方針

高崎商科大学長

I 前文

〈社会環境の変化・対応〉 1 少子高齢化 2 第 4 次産業革命 3 ローカル化・グローバル化

- ・ 自主・自立の建学の精神に立ち、本学の「社会的価値」(USR)を高める
- ・ 「実学重視」「人間尊重」「未来創造」の教育理念の下にビジネス社会のリーダーとなる人材を育成する。「知の拠点」として、社会・地域と交流しその発展に貢献する

II 課題と展望

- 1 学生を「面倒見よく育てる大学」として、地元で最も信頼される大学をめざす
 - ・ 特色ある教育・研究実績を上げ、地域密着型の「商大ブランド」(TUC)を確立する
- 2 教学体制の確立
 - ・ 大学・大学院の入学・収容定員の確保、就職内定率(満足度)100%をめざす
 - ・ 高大連携(附属・地元高校との連携、Haul-A プロジェクト・SAH)を堅持する
 - ・ アセスメントポリシーを導入し、教育の質向上を図る
- 3 今後の展望
 - ・ 大学開学 20 周年(2021 年)へ向けて toTuc 計画を推進する
 - ・ 経営学科および会計学科の完成(2020 年度)に注力する
 - ・ 大学院研究科では、社会の高度な人材要請に応えるべく改革に着手する

III 大学運営

- 1 教育と研究
 - ・ アクティブラーニングを取り入れ、感動を与える授業・教育に努める
 - ・ 地域社会の要請に応じて研究を進め、その成果を還元する
 - ・ 外部資金(「科研費」や「民間資金」)の獲得をめざす
- 2 学生生活
 - ・ 学生の学習・生活満足度を高め、卒業までよく面倒をみる
 - ・ 「専門演習」において就活・進路支援を行う
- 3 社会・地域貢献
 - ・ 社会・地域貢献(公開講座、地元・地域の活性化支援)に努める
- 4 広報戦略・IR 活動を強化
 - ・ ステークホルダーに向けて広報活動・情報発信を充実させる
 - ・ 学内外のデータを収集・分析し、運営に活用する
- 5 組織人としての行動
 - ・ 教職員らしい品位を保ち、法令や規律を遵守し、快適な職場環境を確保する
 - ・ FD 活動と SD 活動を連携させ、教職協働により大学運営とその改善に取り組む
 - ・ 普段から経費の節減に努める
- 6 対外関係
 - ・ 産官学金言民の連携、国内・海外の大学等との連携を維持・強化する
 - ・ 国の補助事業等に応募申請する

※「運営方針」を組織・個人目標に落とし込み PDCA(計画・実行・評価・改善)を実践する